

日刊 動労千葉

87. 3. 9

No. 2496

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五(六) (公衆)〇四七二(22)七二〇七

「一人の首切りも許すな」を合言葉に 北海道九州の仲間と連帯し実力反撃へ

四月二日を新たな闘いの門出に

北海道・九州を中心にして、差別・選別の首切り攻撃

今、北海道・九州を中心にして、差別・選別の首切り攻撃。清算事業団送りに対する国労組合員の怒りが噴き出し、職場で、地域で中曾根・当局・動労革マル。鉄道労連への実力反撃が繰り広げられている。北海道・九州の仲間の闘いに固く連帯し、闘う国鉄労働者の誇りにかけて立ちあがらなければならない。今こそ、「二人の首切りも許すな」を合言葉に実力の反撃。ストライキへ決起する時だ。

清算事業団は「首切り」だ

二月十六日に新会社への差別・選別の振り分けが強行され、北海道・九州の七千五百人をはじめとした全国一万四千人もの国鉄労働者が清算事業団という名の「首切り」攻撃にさらされているが、これに対する怒りの実力反撃が各地で当局・鉄道労連に対してはじまっている。

北海道では、国労八千人中二千七百人、全動労千人中二百八十三人だけが「採用」されただけにとどまり、明らかに組合差別が行われている。そして、この攻撃の一方の推進軸である動労革マルは、表面的には「100%採用」などと言っているが、実際には四五才以上の動労組合員を強制的に退職に追い込み、革マル分子だけが生きのびようとした。職場では、動労革マルに対する怒りがあふれている。

さらに、北海道警察が当局に対し「不採用への伝達の際には混乱に備え、録音機を設定し録音すること」(二月十七日付北海道新聞)と指示し、国家暴力をもって「首切り」攻撃を強行した。

吹きあれる実力反撃

また、九州では、二千七百人への首切り攻撃に対して実力の反撃がたたきつけられ、各地で「通知」の中止、駅長の逃亡、当局のピケを突破しての地区労働者との集会・ハンスト・デモなどがちとられ、権力・当局・鉄道労連に大打撃を与えている。

この闘いの中で、希望退職した管理者を呼び戻してまで国労組合員を不採用にしていることが明らかとなり、さらに怒りが噴き出している。

このように、「一人の首切りも許さない」を合言葉に、国労指導部の無指導にもかかわらず、こ

れを乗り越えて国労組合員の断固たる抗議闘争が大爆発し、大きな勝利をかちとっている。

北海道・九州の仲間と連帯し 実力の反撃に決起しよう

北海道・九州を中心にした反撃の闘いを、われわれは絶対に見過ごしてはならない。これを見過ごすということは、われわれ自身が「首切り」を認めるということであり、労働者としての、労働組合としての死だ。

「一人の首切りも許さない」闘いを貫いてきたわれわれが、どうして一万四千人の首切りを許すことができようか。絶対にユルセナイ。

この「首切り」攻撃に勝利する唯一の方針は、実力反撃。ストライキをもって闘う以外にない。このことは、われわれ動労千葉が身をもって示し、今なお敢然と闘いぬいていることを見れば明らかだ。

この方針をひたさげ、四月一日を新たな闘いの門出にするために北海道・九州の仲間と固く連帯し、労働者の誇りにかけて共に闘いぬかなければならない。

権力介入の首切り(2/17北海道新聞)

路線の差別化と

国鉄道総局混乱に備え、革マル秘通達

文書に道警名も

国鉄職員「振り分け」組合員数

職別	新会社	採用者	選別	選別率	採用率
国鉄職員	2493	1113 (907)	1337	1043	45.4
労働者	181	53 (14)	44	122	28.3
門大	142	25 (21)	136	281	15.5
地	285	117 (117)	178	120	41.1
鉄	270 (1059)	1695	1566	43.1	
計	2929	126	206	88.5	
		35	65	93.4	
		73	69	69.9	
		34	89	89.1	

組合別内定者数 (2月18日現在)

組合	内定者	採用率	
国鉄労	7,948	2,321	34.6%
動労	3,300	2,061	62.5%
地	2,748	2,061	75.0%
鉄	2,061	2,061	100.0%
計	15,057	8,444	56.1%

不採用通知 完全撤回

マスコミ報道でも差別・選別がはつきり出されている。上・九州・下・北海道